

特色ある学校

石巻発、『国際基準の総合技術者』の育成を目指して

宮城県石巻工業高等学校長
倉光 恭三

1. はじめに

ITや情報通信の劇的な進化の中で世界はボーダーレス化し、益々世界的規模での共存共栄が求められる中で、世界第二位の経済力を誇る日本の果たすべき役割は、一層大きく重要となっている。世界における日本の位置付けとその存在感の大きさを適切に理解して、経済のみならず政治、文化、地域の安定化、福祉、ボランティアと言った様々な分野において、国力に応じたネットワークな活動と責任分担、信頼関係の構築が求められているのである。日本がより豊かで、安全で魅力ある国であり続けるには、広く世界に目を向け、複眼的な視野を持って活躍しようという志を持った若者が一人でも多く育ち、社会で活躍することが何よりも必要なことである。

本校として、上述のような志を持った生徒の育成を目指し、本校の教育方針にその内容を盛り込んでいる。

2. 本校の概要

本校は昭和38年に時代のニーズに対応して誕生した宮城県東部地区を代表する総合工業高校であり現在、土木システム科、電気情報科、化学技術科、機械制御科、建築科の5科体制で、1学年6クラス、総生徒数720名である。建築科は地元経済界の要請を受けて、平成15年に新設され、本年3月に初めての生徒40名が卒業したところである。

本校の卒業生の進路は多種多様で、約半数強の生徒が県内外の大手・有力企業に就職、残り

半数弱の進学希望者も地元の県立大学を始め全員が大学、短大、専門学校に進学している。

本校は平成14年～18年8月まで大規模改修工事がなされ、近代化された実習棟・教室棟・管理棟、野球場、グラウンドも完成したところである。設備、備品も新しくなり、生徒達は学習、



写真1 校舎全景

実習、資格取得、ものづくりや技術の向上に常にワンランクアップの水準を目指して、日々積極的に学校活動に取り組んでいる。また、野球・ラグビー・サッカー・ボート等の運動部に加えて、天文物理部、自動車部等の文化部の活動が盛んなことも本校の特色であり、特に、昨年度は野球部が夏の甲子園大会宮城県大会準優勝。本年度はボート部がインターハイ出場・国体への出場を果たしている。

3. 石巻発、国際基準の総合技術者



写真2 近代的な校舎棟・実習棟

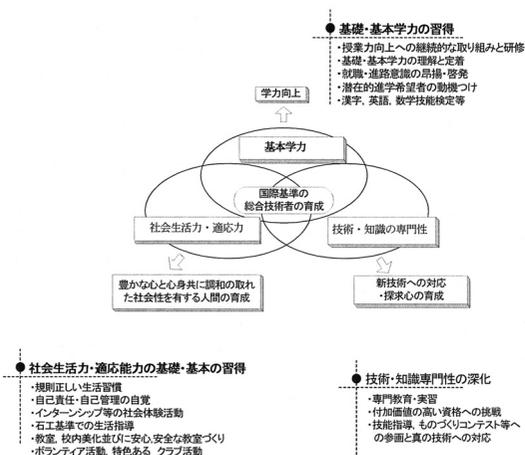


図1 学校経営方針イメージ

これからの技術者には使命感に燃えた『国際基準の総合技術者』として、言葉や文化の違いを乗り越え、世界の人たちと堂々と渡り合い、活躍できる実力が今まで以上に求められており、その必要な資質として、

- ① 本来の知識や技術の専門性に加えて（技術専門性の深化）、
- ② 企業における事業資金の確保や、資金の流れ等、金融・財務面を理解する意欲（基本学力の定着強化）、
- ③ 組織マネージメント、コミュニケーション、自己の表現を適切に行える会話力（社会生活力の基礎）、

があげられる。またこれらのバランスした実力を備えることによって地域経済や社会に貢献していけるものと考えている。

本校の教職員は生徒達と共に、『国際基準の総合技術者』の育成を目指して教育活動の様々な分野で、常にワンランクアップの水準を目指した学校活動に取り組んでいる。

4. 学校活動への戦略的な取り組み

(1) 工業高校として、特色ある授業力の向上

工業高校として必要な様々な特色ある活動実践の為に、普通高校とは内容を異にした授業時数やカリキュラムの設定が必要である。本校で

は生徒の基礎・基本学力の向上の為に授業力向上に向けた不断的努力を行い、2006年度は宮城教育大学とも連携して、本校独自の授業力向上プランの企画、教員の研修等も実践中である。その教員研修の内容としては、観点別の評価、指導計画の立案、シラバスの充実、授業研究を主なものとして、普通高校の授業参観、講演会への参加、そして授業実践の課題を探るワークショップの在り方などを検討している。授業研究では、授業を効果的に成立させる学習環境の在り方や目標に準拠した授業の進め方などについて、各教科内で研究授業の定例化を目標にして授業の改善を図ることとしている。専門教科においての授業を改善するという点については課題も多いが、将来のスペシャリストを目指した効果的な授業実践ができないものかと模索しているところである。

(2) ものづくり教育とキャリア教育

本校ではものづくり教育の一環として、各学科において、地域の優れた技術者を招聘し実践的な授業を行っている。高度熟練技能者や技能士の作業を直接見ることで、また、懇切丁寧な指導を得て、技術と匠の技に触れる機会を多く設けている。ものづくりに対する意識の高揚を図り以後の教育に資する考えであり、着々とその効果が見え始めている。

また、キャリア教育を充実させ、職業観・勤労観の育成も念頭に置き、各工業分野で活躍しているスペシャリストによる講義を企画する等、ものづくり教育と連携させ将来の技術者としての資質を育む実践を行っている。

昨年度は宮城県の若年者支援の1つであるみやぎジョブカフェ事業を本校で開催し、本校の取り組みと融合させ、ものづくり教育とキャリア教育の同時推進を図っている。同時にインターンシップ実施に際しても、事前説明会を生徒対象に開催し、インターンシップの意義や、将来の進路選択を含めた職業意識の高揚を図り、



写真3 旋盤技能検定



ロボットコンテスト



写真4 生徒インターンシップ

職業人の基本的態度の意識付けも併せて行っている。

そして、技術や知識の深化を図ることを狙いの1つとして、各種ものづくりコンテスト（ロボットコンテストなど）への積極的な参加を奨励している。他校の専門高校生と競い合うことで、ものづくりの難しさや、楽しさ、技術などへの興味・関心を引き出せるものと考えている。

(3) 戦略的資格・技能指導

資格取得は、工業高校生の付加価値を高め、モチベーション向上に重要な役割を担うとの位置付けのもと、各科主導で戦略的で特色のある資格指導、資格取得を展開している。ジュニアマイスター顕彰の人数自体は結果評価において重要な指標となるが、更に大事なことはその中身を充実させることである。本校においても昨年は高校生では難関資格と言われているダイオキシン類・水質関係第4種公害防止管理者を3名出し、また、本校のジュニアマイスター顕彰者数も2003年度は0名であったが、2004年度は3名、2005年は19名となり（内ゴールド3名）、2006年度もさらに増加の見込みである。

また、旋盤技能検定3級については、2005年3名、2006年15名（内1名教諭）の合格者を出すことが出来た。

本校の各学科の資格戦略に沿って（ホームページにも掲載）、付加価値が高く、特色のある資格指導・取得の企画・実践を推進していると

ころである。

(4) インターンシップ関連

今年、本校の全学科によるインターンシップの実施を目標に石巻商工会議所、ハローワーク、本校同窓会等の支援により、就職希望者を中心とするインターンシップを実現させている。実施前の徹底した事前指導や事後のフォローアップでの生徒の感想文や報告書の発表会は、企業からも高い評価を得ている。地元企業と連携したキャリア教育推進の成果と自負している。

(5) 進路ガイダンスの充実と進路指導

本校では、低学年から進路ガイダンスをスタートさせ、学年進行でその内容を変え、生徒の進路選択の一助としている。保護者も生徒と共に参加し、進路に関して生徒と保護者が共通の話題を持つことで、進路意識の高揚を図る狙いがあり、生徒の多様な要望に応える内容とし、外部からの専門の講師を招聘するなどの工夫をしている。進学者向けの対応も考え、特別な補



写真5 学校長の企業教育

習授業も実施している。

校長自身も企業時代の経験を生かし、工業5学科の生徒に対して企業教育を今年度2時間ずつ計10時間の授業を行っている。

5. 地域の拠点校としての役割

本校は地域の拠点校としての役割・期待を背負っており、新実習棟、校舎棟、グラウンドの建設という巨額の投資を少しでも地域に還元していく姿勢は常に念頭に置く必要があると考えている。本年度は、夏休み中を利用して、石巻市小中学生を対象にした児童生徒の学びを助け学習の仕方、考え方を指導する延べ10日間に及ぶ地域学習支援センターの会場として本校を開放している。直接の指導は宮城教育大学の学生によるボランティアで行っており、教育経験者による保護者の教育相談も実施している。参加した児童生徒は延べ約2,000名に及んでいる。

そして、生涯学習の一環として、地域住民が学校の施設を利用し体験や実習、講義をとおして学ぶ「みやぎ県民大学・学校開放講座」もこの夏開講している。

同様に学校公開の一環として、近隣の小学校の児童4、5年生100名とその保護者を本校に招いて、理科の実験や工業のやさしい技術の紹介を年間2回実施している。本校の生徒自身が児童の指導を行い、楽しく理科的な創意や、工業の技術について学ぶ体験的な教室を開催している。

更に地域の取り組みである『街づくりステーション』という地元の活性化事業に参加し、本校独自の工夫をこらした学校の教育活動の紹介や、実習で製作し、実生活でも使える生活用品等を提供し地元地域活性化にも貢献している。また、本校独自で冬の街をイルミネーションで飾るという企画を行って、地域の小学生を募り、発光ダイオードを半田付けして、12月中地域の有名施設を彩った。小学生の指導には本校の生徒に加えて、宮城県古川工業高校定時制、宮城県第二工業高等学校の生徒が参加して指導を行

った。工業高校の生徒達の真剣な取り組みに保護者からも高い評価を得ることができた。

このように地域と密着した活動を行うことで、工業高校の教育活動に対する保護者や地域社会の理解を深め、地域社会から信頼され、存在感の大きな工業高校を目指すところである。

6. その他の取り組み

本校の教育目標として『国際基準の総合技術者』をあげているが、この取り組みの狙いの1つとして、自己表現力の向上をあげている。自己の考えや意見を適切に表現し、他の考えや意見を的確に読解する力の涵養である。様々な場面で、基本的な挨拶からはじめ、自己の言葉で自分の意見を述べる機会を作る努力をしている。また、近い将来にビジネスで必ずや必要となる英語会話力の向上を目指して、英語検定3級を生徒全員の合格目標とし、準2級、2級と次第にその合格者数が増えている。

独自の事業としては、地域のALTの協力を得て、近隣の学校から希望者を募り「O'cha-Meeting」を本校にて開催し、異文化の交流と英語での表現力向上を狙っている。毎回20名程度の生徒の参加があり、他校からの評判も高い。

今年度は積極的に海外文化との交流を目指す生徒も増え、各種団体の後援を得て、タイや米国に1～2週間のホームステイを行っている。更に英語、国語、漢字検定、数学等を強化したい生徒に対しては、各教員が個別に独自のスケジュールで対応している。

7. おわりに

本校の教職員は地域の拠点校としての高い意識の下、工業高校として魅力ある学校づくり、人づくりを目指し、様々な活動に取り組んでいる。生徒、地域社会、保護者のニーズに常に關心を払い、生徒の数だけの可能性と夢を詰め、地道ながらも基礎・基本を大切に、それぞれの分野で、常に目線を高く、ワンランクアップの成果を目指している。